

| | | | | |
|--|---|---------------------------------|------|--------------|
| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
| 経済学 Economics | | 1年 | 前期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 2単位 | 講義 | 選択 | () | |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 経営学Ⅰ・Ⅱ、マーケティング、金融と証券 | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 長江 庸泰 | 本館2F (研究室1) | 月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く) | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 実務で役立つ、マクロ&ミクロ経済学・金融・財政・国際経済の“楽習”を通して、世界の出来事をより深く洞察できる能力と同時に、人生を生き抜く“ファイナンス力”を身につけた人材を育成します。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①「国際経済から見た国家 (a. 日本《プラザ合意、バブル経済、不毛の30年》、b. アメリカ《ITバブル、雇用と財政、リーマン・クラッシュ》、c. アジア《通貨危機》、d. 100年に一度の経済危機)」を習得し、第三者に説明できるようにする。 ②「経済活動」を習得し、第三者に説明できるようにする。 ③「ミクロ経済学」を習得し、第三者に説明できるようにする。 ④「マクロ経済学」を習得し、第三者に説明できるようにする。 ⑤「金融・財政と国際経済」を習得し、第三者に説明できるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、経済学に精通した人材育成を目指すものである。 | | | | |
| 学習の成果 (学習成果) | | | | |
| 「国際経済から見た国家」、「経済活動」、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「金融・財政と国際経済」等の知識・概念を身につけ、1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法を実生活で活用することができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス (シラバスの解説・授業の狙いと進め方・成績評価等) | | | |
| 第2回目 | 国際経済から見た国家 (①日本《プラザ合意、バブル経済、不毛の30年》、②アメリカ《ITバブル、雇用と財政、リーマン・クラッシュ》、③アジア《通貨危機》、④100年に一度の経済危機) | | | |
| 第3回目 | 国際経済から見た国家 (①EUの誕生、②中国、③BRICs) | | | |
| 第4回目 | 経済活動 (①経済学とは、②経済学に学ぶ自己責任の時代、③経済学の領域) | | | |
| 第5回目 | 経済活動 (①歴史に学ぶ経済学、②経済学の概念、③経済システム) | | | |
| 第6回目 | ミクロ経済学 (①需要曲線、需要の変化、需要の価格弾力性、②供給曲線、供給の変化、供給の価格弾力性) / プレゼンテーション&ディスカッション① | | | |

| | | |
|-------------|--|---|
| 第7回目 | ミクロ経済学 (①生産理論、②経済モデル、③市場構造、④企業戦略、⑤逆選択) /プレゼンテーション&ディスカッション② | |
| 第8回目 | マクロ経済学 (①GDP、付加価値、三面等価、②限界消費性向、投資、③輸出入) /プレゼンテーション&ディスカッション③ | |
| 第9回目 | マクロ経済学 (①政府支出、名目・実績GDP、②経済成長率、インフレーション、デフレーション、スタグフレーション、③失業) /プレゼンテーション&ディスカッション④ | |
| 第10回目 | 金融・財政 (①金融とは、中央銀行、金融政策、金融ビックバン、②M&A、債券、③ヘッジファンド、信用取引、証券化) /プレゼンテーション&ディスカッション⑤ | |
| 第11回目 | 金融・財政 (①財政とは、財政政策、②乗数効果、③年金) /プレゼンテーション&ディスカッション⑥ | |
| 第12回目 | 国際経済 (①外国為替市場、②変動為替相場) /プレゼンテーション&ディスカッション⑦ | |
| 第13回目 | 国際経済 (①一物一価、②購買力平価) /プレゼンテーション&ディスカッション⑧ | |
| 第14回目 | 国際経済 (①為替差損・差益、②テロリズムと経済) /国際経済 (①比較優位、②産業の空洞化、③国際収支) | |
| 第15回目 | 国際経済の時事問題 | |
| 事前・事後学習 | 事前学習(シラバスの学習ポイントを自分で調べ、質問事項等を準備しておくこと)・事後学習(ノートを見直しながら、1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜き、3)自分で調べ・学ぶ姿勢を身につけること) | |
| 成績評価の方法と基準 | | |
| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | 10% | 以下の3点から評価する：①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。 |
| レポート | 30% | Sのレポートの評価：①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月1回計3回提出予定(締切は各月末)。 |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | 20% | グループワークによるプレゼンテーション力のS評価：①内容が創意工夫した発表となっている、②グループの意見が論理的に述べられている、③グループで協働し、積極的に質疑応答に臨んでいる。 |
| 試験 | 20% | 期末記述試験 |
| 発表内容 (態度含む) | 20% | Sのレポート発表評価：①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。 |
| その他 | | 上記評価基準に基づき成績評価：S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59 |
| 教科書と参考図書 | | |
| | | 長江庸泰作成の“デジタルテキスト[経済学 2019年度版]”を活用する。 |
| 履修上の留意点・ルール | | |
| | | ●実務経験(職種：会社役員、職歴：通算39年) 本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自主創造の精神に基づく課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けましょう。 |